

東京外国語大学・東京外語会共催新入生歓迎会  
～内容及び開催時間変更のお知らせ～

下記の通り変更となりましたのでお知らせ致します。

開催日： 5月13日（金）変更なし

開催時間： 午後5時45分～8時

第1部 講義「驚くべき東京外国語大学の歴史」

名誉教授 渡辺雅司（R昭44卒）

時間 午後5時45分～6時45分

場所 プロメテウスホール

第2部 懇親会（立食方式）

時間 午後6時45分～8時

場所 学生食堂

\*第1部は新入生のみならず在校生の皆さまならどなたでもご出席頂けます。

予てより出欠のご確認を頂くようお願いしておりますが、メールにて下記宛にご連絡をお願い致します。

東京外語会 事務局 [jimukyoku@gaigokai.or.jp](mailto:jimukyoku@gaigokai.or.jp)



## 講義 「驚くべき東京外国語大学の歴史」

渡辺雅司先生には下記主旨の内容の講義を行なって頂きますので、多数の皆さまのご出席をお待ちしております。

「新入生の皆さん、外語大がどんな大学か知って、入学しましたか？かく言う私もまったく知りませんでした。その後明治7年に外語魯語科に着任した亡命ロシア人革命家レフ・メーチニコフの研究を通して、外語の歴史を知るたびに、知的興奮をおぼえたものでした。明治6年の開設当時の生徒名簿には英語科として明治を代表する真の国際人新渡戸稲造、内村鑑三、岡倉覚三(天心)、嘉納治五郎が名を連ねているのです。

そればかりではありません。翌年から校長になるのがかの中江兆民なのです。

また外語は日本でもっとも古い国立大学であり、東京大学とは兄弟、一橋大学は義理の弟だと言ったら、びっくりするでしょう。

しかも外語は明治18年に一度廃校になっているのです。現在の外国語大学が設立されたのは明治32年ですから、今年在建学138年、独立114年となります。その後の外語は、国策に翻弄されてきましたが、そうした外面の歴史ではなく、内面史を掘り下げるとわが国の近代史、とりわけ文化史が見えてくるのです。そしてその延長線上に、今君たちは立ったところなのです」